

組合だより

【 第372号 令和7年6月 日本羊腸輸入組合 】

5月の総会・理事会

○ 5月29日(木)第62回通常総会が開催されました。審議結果等は以下のとおりです。

なお、松永理事長の総会開催ご挨拶は、【参考情報・お知らせ】欄に掲載しています。

1. 出席者内訳

組合員ご本人様のご出席	8社
代理でのご出席	2社
委任状によるご出席	3社
議決権行使による御出席	5社
計	18社 (2社未回答)

2. 議案審議の結果

上程された議案の全議案が、原案どおり可決承認されました。

また、通常総会後に開催されました懇親会には、ご多忙中にも関わらず、経済産業省、厚生労働省、農林水産省様をはじめ組合員、賛助会員等沢山の皆様にご参加いただき、懇親を深めることができました。ありがとうございました。

5月の事務局活動

○組合員関連

・天然腸輸入報告統計協力12社に対し、令和7年4月分の結果報告と令和7年5月分の報告依頼を行いました。

○関係省庁・団体関連

・経済産業省農水産室を訪問し、第62回通常総会提出議案について内容説明を行いました。

- ・5月28日(水)一般社団法人日本ハム・ソーセージ工業協同組合等四団体の総会・懇親会に松永理事長が出席されました。
- ・5月30日(金)一般社団法人日本貿易会の総会に出席しました。

○その他

- ・第62回通常総会の会場となるホテルマイステイズ五反田駅前との通常総会開催の最終確認を行いました。

統計 *統計の詳細は組合ホームページで御確認下さい。

【財務省貿易統計】

令和7年4月の天然ケーシング輸入量は、次のとおりです。

- ・総輸入量 396.0t (前月比+105.2t、136.2%/前年同月比 +29.9t、108.2%)
- ・中国原産 237.0t (// + 31.5t、115.3%/ // + 3.6t、101.5%)
- ・豪州原産 65.0t (// + 9.3t、116.8%/ // +13.7t、126.7%)
- ・NZ原産 65.3t (// + 35.6t、219.8%/ // + 5.2t、108.6%)

【ソーセージ生産量(日本ハム・ソーセージ工業協同組合調べ)】

令和7年4月のソーセージ生産量は、次のとおりです。

- ・ソーセージ類合計生産 : 26,643.6トン (前年同月比 : 98.6%)
- ・ウィンナーソーセージ : 19,998.2トン (// : 99.7%)
- ・フランクフルトソーセージ : 3,217.2トン (// : 100.9%)

参考情報・お知らせ

○松永大介理事長の第62回通常総会開催挨拶

本日はご多用の中、第62回通常総会にご臨席賜り、誠にありがとうございます。本総会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨今の世界経済は、不安定な国際情勢や地政学的リスクの高まり、ならびに物価上昇や円安の影響を受け、先行き不透明な局面に差しかかっております。特に、米国による関税措置、エネルギー価格の高騰、そして為替市場の変動など、我々輸入業界にとっては極めて重要かつ深刻な課題が山積しております。

こうした状況下において、安定した原料供給を確保し、引き続き食肉加工業界を支えていくためには、いくつかの重要な取り組みが求められています。本日はその中でも、特に注視すべき三点についてご報告申し上げます。

第一に、輸入可能国の拡大についてでございます。

これまで何度かお話しさせていただきましたが、BSE の発生を契機に、天然羊腸の輸入ルートは厳しく制限されてきました。当組合は長年にわたり関係省庁や海外の業界団体と連携し、粘り強い交渉と対話を重ねた結果、現在では 11 か国からの輸入が可能となり、特に中国においては 48 の認定施設が整備されております。しかしながら、なお未稼働の施設もあり、また欧米ルートの再確立には至っておりません。ロシア・ウクライナ情勢や中東の不安定化、米国の通商政策の影響などを踏まえると、安定供給の観点からさらなる輸入可能国の多様化は急務であります。今後も関係各位のご協力をいただきつつ、引き続き取り組みを強化してまいります。

第二に、サプライチェーンとしての責任についてです。

1963 年に 45 社で発足した当組合は、現在 20 社の組合員企業によって構成され、年間 900 万～1000 万ハクスの天然羊腸を安定的に輸入しております。本業界は高度な専門性と、サプライヤーとの信頼関係を基盤とする極めて繊細なビジネスであり、品質管理とフェアトレードの精神が重要です。組合の定款第 1 条にもある通り、「羊腸等の輸入取引の秩序を確立し、健全な輸入貿易の発展を図り、食肉加工業の発展に寄与すること」という使命のもと、我々はサプライチェーンの一翼を担う者としての責任を今後も果たしてまいります。

第三に、持続可能な発展への取り組みについてです。

創設以来 60 年を超える歴史の中で、組合員企業も二世代目、三世代目へと世代交代を迎えています。国際社会が混迷する今、業界全体として「持続可能な発展 (Sustainability)」に真摯に向き合うことが不可欠です。当組合としても、業界の将来を見据え、環境や倫理に配慮した取り組みを一層推進してまいります。また賛助会員制度の拡充や、共通利益の増進を目指した情報共有・セミナー等の施策も強化し、食肉加工業界の持続発展に向けて皆様と共に取り組んで参りたいと存じます。

どうぞご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

結びに、本総会の開催にあたり、ご臨席賜りました皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今後とも当組合の活動に一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今後の主な予定

○7月16日(水) 令和7年度第1回理事会

以上